

# 広域観光交流の推進

日本大学 国際関係学部 矢嶋ゼミ（研究室）  
指導教員：教授 矢嶋敏朗  
参加学生：伊藤育美、井上周也、岩下晴香  
木村悠也、白井虎太郎、永井一輝  
永井堅登、山口晃季、鮎澤怜生  
佐野亜衣子、水上葉月

## 1 要約

三島市は、首都圏や伊豆地域を結ぶ交通の要衝に位置する一方、観光客が市内に滞在せず通過してしまう「通過観光地」となっていることが長年指摘されている。このため、滞在時間の延長や来訪動機の創出が課題となっている。こうした課題に対し地域の伝統芸能である『しゃぎり』（\*1）に着目をし、PR動画の撮影、イベントの実施をした。

本活動は、三島市観光協会様、しゃぎりフェスティバル実行委員会様、静岡住みます芸人のさこリッチ様らにご協力を頂きながら産官学連携を意識した活動としている。

\*1：しゃぎりとは、静岡県三島市の伝統芸能であり、三嶋大祭りを中心に演奏される、独特なリズムを刻むお囃子である。

## 2 研究の目的

三嶋大祭りは、毎年8月15～17日に開催され、50万人強以上が来場する。しかしながら、来場者は近隣地区から多く、人口が多く来場見込み客の多い首都圏や中京圏では知名度が低い。

同祭のキラーコンテンツである「しゃぎり」は、日本人だけでなく、最近増加するインバウンド客に対して極めてインパクトが強い。しかしながら、Z世代への認知度は極めて低く、ゼミ生世代のZ世代へ、しゃぎりをフックに三嶋大祭りの訴求を図りたい。

## 3 研究の内容

三島市の観光交流客数は、コロナ禍直近の平成30年度に774万人あったが、令和2年度実績で339万人と大幅減少した。令和6年度実績でも664万人にとどまりコロナ以前への回復の道のは遠い。しかしながら、国内外からの旅行客は、隣町のメジャー観光地である「箱根」「富士」などで顕著に復活が見られている。矢嶋ゼミナールでは周辺観光地訪問者を、三島市街地へ誘客（広域観光の促進）することが三島市の喫緊の観光課題であり継続的に活動をしている。

今年度は、三島市観光協会様、しゃぎりフェスティバル実行委員会様、静岡住みます芸人のさこリッチ様らと連携をし、2025年8月15日～17日に実施される三嶋大祭りへの誘客を目的とした動画撮影や誘客イベントを実施した。

## 4 研究の成果

(1) 当初の計画

- ・三島スカイウォークにおいてランウェイでしゃぎりのPR動画撮影を行う
- ・伊豆ゲートウェイ函南にてしゃぎり告知イベントを実施する

## (2) 実際の内容

三島スカイウォークでは悪天候による一度の延期、伊豆ゲートウェイ函南でのイベントは予定通り実施した。

### ①三島スカイウォークでのランウェイでのPR動画撮影

三島スカイウォークにて三嶋大祭りで着用される法被と、しゃぎりに使われる摺金などを静岡住みます芸人のさこリッチ様、しゃぎり団体のみなさま（芝本町、大宮町3丁目）学生が用いランウェイ（三島スカイウォーク橋上）でしゃぎりのPR動画の撮影を行いSNS等で公開した。

#### <結果>

A) 三島の伝統芸能しゃぎりを、三島市の観光スポットである三島スカイウォークにてPR動画を撮影しSNSにて発信することができた。

B) PR動画がテレビや新聞など外部メディアにも取り上げられ三嶋大祭りのアピールができた。

#### <課題>

- ・再生回数の伸び悩み

### ②伊豆ゲートウェイ函南でのしゃぎりイベント

伊豆ゲートウェイ函南（三島市）にてしゃぎりに関連したイベント「三島はどうです？」を行う。本イベントではしゃぎりフェスティバル実行委員によるしゃぎりの演奏、静岡住みます芸人さこリッチ様の実演に加え地域のキッチンカーの出店や、三島風鈴など地域に関連したイベントを催した。

#### <結果>

「三島はどうです？」イベントで通りすがりの方や県外の方々に三島・しゃぎりを伝えることができた。

#### <課題>

事前告知をしたものの集客数が少ない



①三島スカイウォークにおけるPR動画撮影の様子



②伊豆ゲートウェイ函南におけるしゃぎりイベントの様子

## 5 課題提出者・地域への提言

三島が観光地化でなく通過ポイント化が進んでいるのは大きな課題である。今回の活動を通して、三嶋大祭り（しゃぎり）のポテンシャルはよくわかった。学生により動画の配信やイベントの開催には、運営や作成スキルやコスト確保の問題があった。地域のしゃぎり団体やイベントに参加するタレントさんをはじめ地域ステークホルダーとの調整が難しいこと痛感した。地域の方の地元に対する想いは強く、中途半端な活動は地域の方に失礼になる。また、生業として活動している方や公的団体には各々のメリットについてもゼミ側がよく理解して活動しないとゼミだけの自己満足になってしまうことを痛感した。

三島の伝統に若者ならではの「型破りな若者感性」を大事にしつつ、地域と大学が相互理解をした上で継続的に活動していくことが重要であることがわかった。

## 6 課題提出者・地域からの評価

【一般社団法人三島市観光協会 主任 金井貴史 様】

三島市の課題である「通過型観光」からの脱却には、認知拡大が不可欠です。その中で、伝統芸能「しゃぎり」をファッションショー形式で魅せるという斬新な発想と、Z世代に直感的に響くTikTok等のショート動画を組み合わせた点は、既存の観光PRにはない大きな突破口となりました。

また、三島スカイウォーク・道の駅伊豆ゲートウェイ函南では、地域のしゃぎり団体や芸人さんなど、多岐にわたる関係者を巻き込む中で直面した「調整の難しさ」を乗り越え、メディア露出という結果に繋げた実行力は特筆すべき成果です。

若者視点による地域資源の再編集は、私たちにとっても新たな気付きを与える素晴らしい取り組みでした。

＜マスコミ報道の一部＞



2025. 6. 3 静岡新聞 全県版



2025. 6. 3 伊豆日日新聞 一面掲載



←2025. 8. 4 静岡新聞 (東部版)



2025. 8. 4  
 伊豆日日新聞